

感染症モニタリングの強化に向けて

齋藤 智也

国立健康危機管理研究機構

危機管理・運営局 感染症危機管理部長

国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長

- 日本の感染症インテリジェンス強化につながる現地情報を、海外研究拠点から（可能な範囲で）共有頂き、その情報を適切に活用する **（下図(1)：モニタリング体制の拡充）**とともに、海外研究拠点が必要とする支援や拠点間の連携促進をサポートする **（下図(2)：研究基盤の強化）**

【研究の概要】

(1) モニタリング体制の強化

① 各拠点からの自発的報告の体制の整備

- ✓ 各拠点より集約すべき情報の整理
- ✓ 各拠点からの自発的報告プロセスの構築
- ✓ ザンビアを中心としたアフリカに関する人獣共通感染症の研究ネットワークの構築

② 政府の感染症発生情報に係る照会対応等の体制の整備

- ✓ 収集した情報の蓄積、加工（分析）、可視化、厚生労働省等への報告プロセスの構築

③ その他窓口業務

- ✓ ネットワークを活用した疫学研究者の 人材層強化窓口 の構築

④ 病原体の収集・共有の在り方検討

- ✓ 病原体のDB、バイオバンクの国内外の事例整理
- ✓ グッドプラクティスの整理・共有

(2) 研究基盤の強化

① 各拠点間の連携推進支援

- ✓ 複数拠点の連携による新たな共同研究等の実施支援

② 各拠点毎の強化

- ✓ 各拠点の間の情報共有体制の構築
- ✓ 拠点の求める支援、相談窓口機能 など

【拠点基本情報】

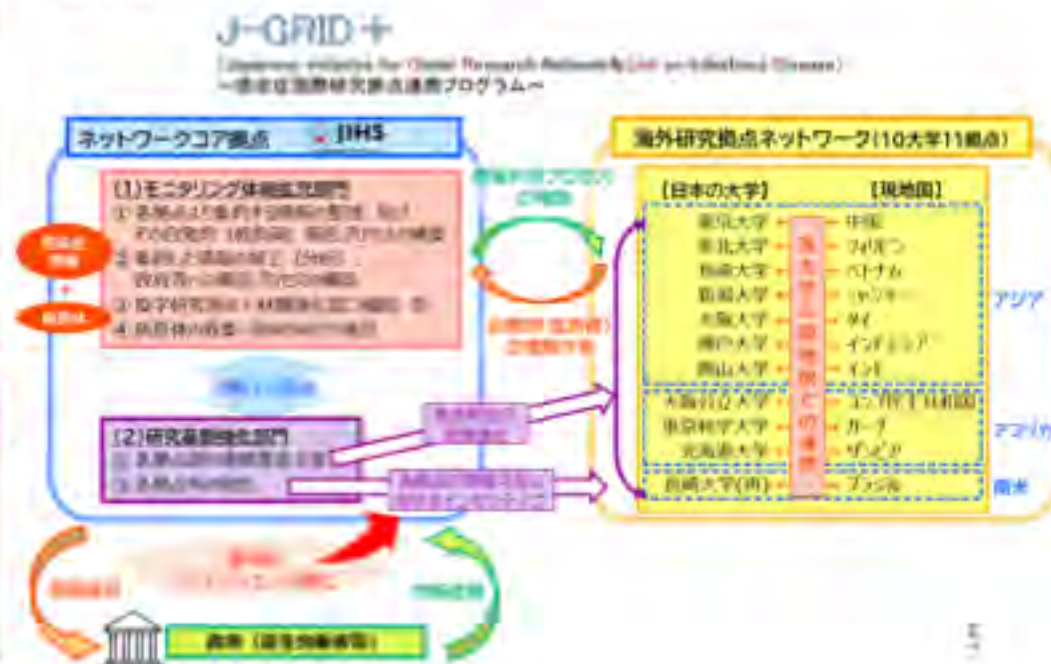


研究開発代表者・拠点長
国立健康危機管理研究機構
理事長 富士 典宏



国名/都市名
日本 東京

【拠点体制構築】



本日の内容

- 国立健康危機管理研究機構の感染症インテリジェンス
- J-GRID+における取組みと課題

国立健康危機管理研究機構（JIHS）の4つの機能

① 情報収集・分析・リスク評価機能（Disease Intelligence）

サーベイランスや情報収集・分析の実績、国内外の関係機関との協働・連携により、感染症インテリジェンスにおけるハブとしての役割を担います。科学的知見を政府に迅速に提供するとともに、国民に分かりやすい情報提供を行っていきます。

② 研究・開発機能（Research, Development and Innovation）

平時より世界トップレベルの研究体制を確保し、基礎研究、シーズ開発から臨床試験まで戦略的に進められる組織を目指します。感染症危機の際には、国内外の機関等と連携し、臨床試験を含め研究開発のネットワークハブとして迅速に対応します。

③ 臨床機能（Comprehensive Medical Care）

感染症危機にJIHSの持つ機能を十分に発揮するためには、高度な臨床能力が不可欠です。そのため、国立国際医療研究センターが担ってきた総合病院機能を引き続き備え、さらに高めていくことにより、人々の健康を守ります。

④ 人材育成・国際協力機能（Human Resource Development, International Cooperation）

産官学連携や国際的な人事交流などを通して、医療従事者・研究者・公衆衛生実務者など多様な専門家の育成・確保に努めます。また、グローバルヘルスに貢献する国際協力を進めていきます。

国立健康危機管理研究機構（JIHS）の関わる感染症インテリジェンス

統括庁・厚労省
関連中央省庁

政策課題



情報要求



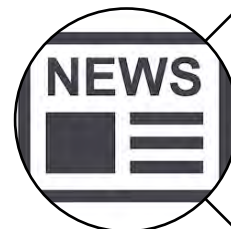
意思決定

医療対応
公衆衛生対応
対抗医薬品(MCM)
のR&D

情報収集
分析
評価

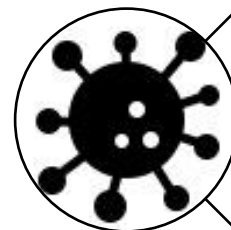
感染症
インテリジェンス

統合・翻訳
コミュニケーション



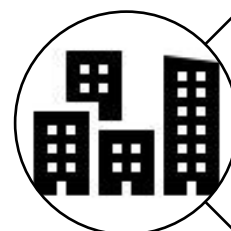
感染症の発生情報

- サーベイランス
- 公式：公衆衛生当局、研究所等
- 非公式：医療機関、アカデミア、メディア、SNS等
- 積極的疫学調査



感染症に関する情報

- 病原体の*in vivo/vitro*研究
- 臨床的知見
- 疫学的知見



社会的インパクトを含む評価のための情報

- 医療・公衆衛生（サーベイランス、検査体制）
- 社会インフラ
- 政治・経済等社会情勢

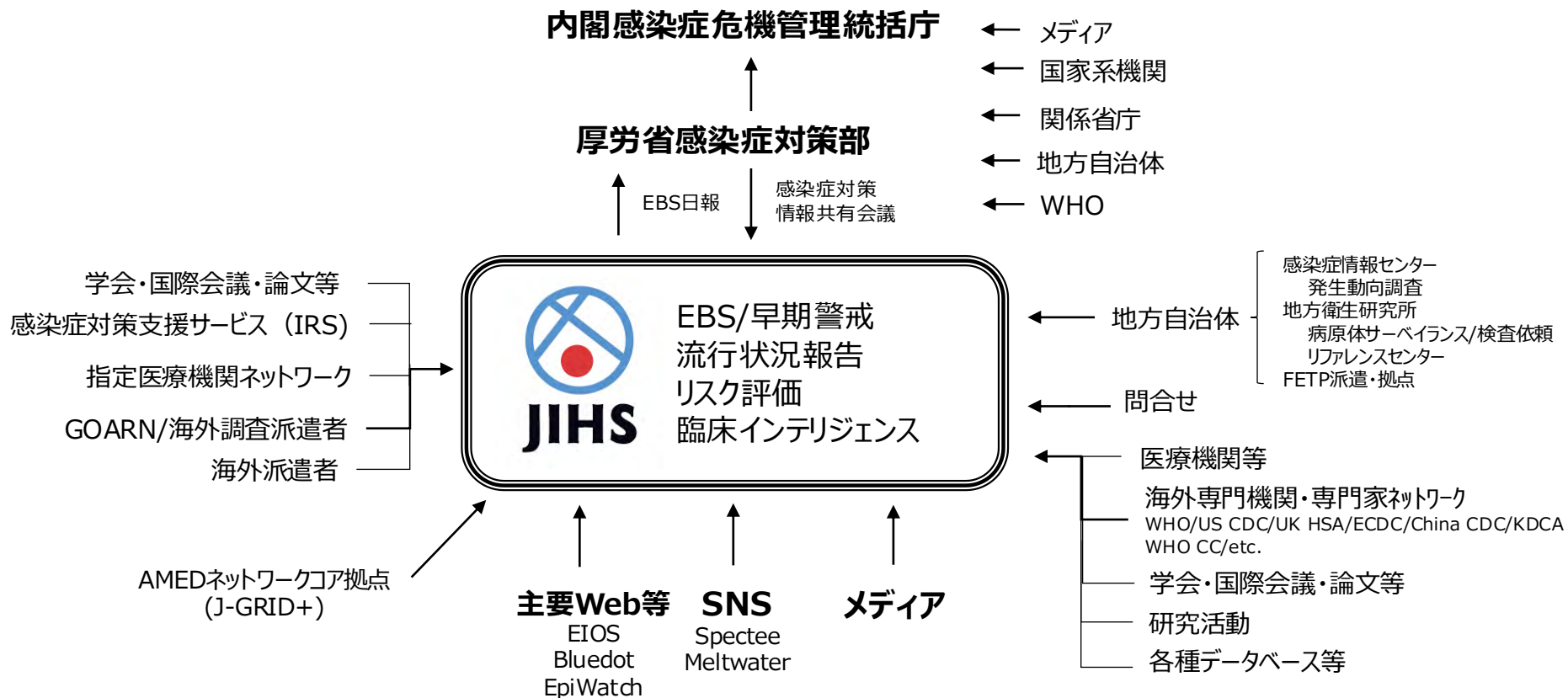


研究開発に関する情報

- 開発標的
- 開発パイプライン
- 開発要求

感染症情報集約体制（感染症インテリジェンス・ハブ）

- 適切な情報管理の下、関係省庁と密に連携しながら、**広範で深い情報収集と集約を進め、JIHSの専門家の専門的知見を最大限に活用した評価・分析をタイムリーに提供する**組織的なインテリジェンス体制の構築を図る。
- 組織統合により、**より広範な関係機関からの情報収集、疫学調査、病原体解析から臨床研究及び公衆衛生研究までを総合的に実施し、多面的で統合された知見の提供が可能になる。**

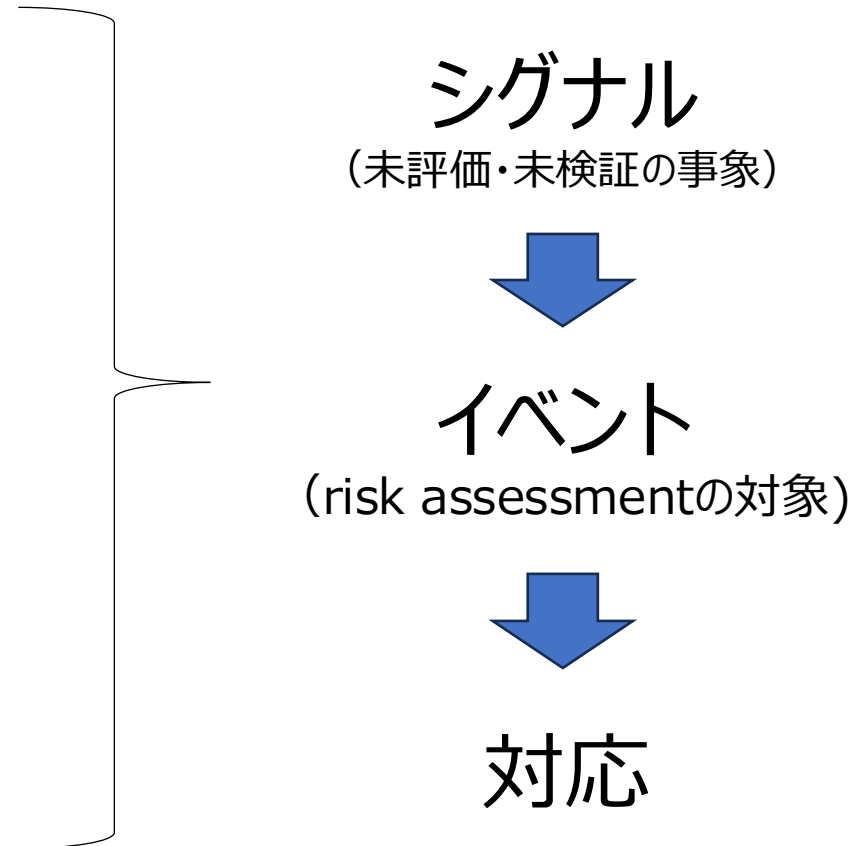


EBS: イベントベースドサーベイランス

感染症の異常な発生を早期検知する

イベントベースドサーベイランス(Event-based Surveillance; EBS)

- 既存のサーベイランスシステム
 - 発生動向調査
 - 疑似症サーベイランス
 - 病原体サーベイランス
- メディア情報
- Web/SNS情報
- WHO等専門機関からの情報
- 専門家ネットワーク等からの情報



感染症インテリジェンスの情報源

オシント (Open Source INTelligence)

ProMED
CIDRAP
HealthMap
Outbreak News
FluTrackers.com

情報収集ツールの例

- GPHIN (Global Public Health Intelligence Network) by Canada
- [EIOS](#) (Epidemic Intelligence with open sources) by WHO
- [Bluedot](#) (カナダの民間会社)
AIを活用した情報収集・整理、分析、情報提供
- [Epiwatch](#) (オーストラリアの大学)
- [Beacon](#) (ボストン大学)
- gideon

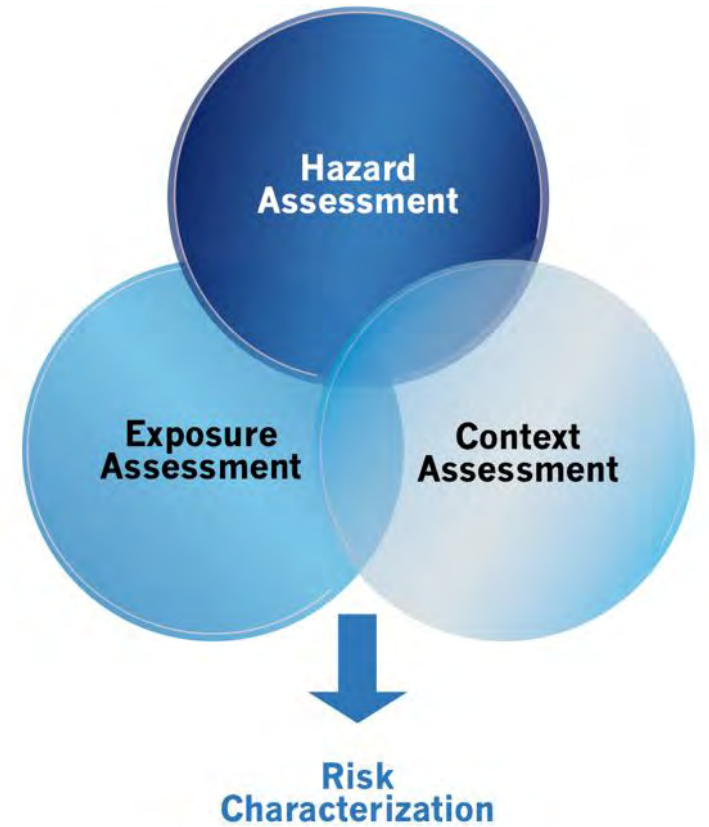
SNSモニタリングツール

- スクリーニングツール
- オピニオンリーダー専門家による投稿がしばしば有用

情報の収集・選別は
飛躍的に進歩。大量の
情報を利用できるようになった

リスク評価

Rapid Risk Assessment of
Acute Public Health Events.
WHO/HSE/GAR/ARO/2012.1
<https://www.who.int/publications/i/item/rapid-risk-assessment-of-acute-public-health-events>



感染症インテリジェンスの課題

- (大量に情報を集めてある程度選別できても) 最後はヒトの目で確認が必要
 - 事実関係の確認
 - 情報の統合
 - 評価
 - 研究や調査の限界の解釈
- **ネットで集められない・集まらない情報も多数**
 - **ヒューミント(Human Intelligence)の重要性**
 - 二国間・多国間ネットワーク
 - 感染症専門家 (ラボ、疫学、公衆衛生) のネットワーク
 - 海外駐在者、留学生等
 - 現地派遣チーム etc.

感染症モニタリングにおける海外研究拠点の意義

- オシント+ヒューミント

- オシント：AIの活用等で日進月歩
- ヒューミント：一日にして成らず

- ヒューミントの重要性

- ウェブ上の公開情報で得られない情報の収集
 - 現地で紙でしか配られない日報
 - 関係者にしか回らないメール情報
 - 現地のリスク認識、政府や社会の反応
- より深い分析と洞察
 - 現地で長期に研究しているからこそ分かること

- インナーサークルに入る重要性

- グローバルにもローカルにも
- (どの国も) 全世界はカバーできない
 - 関係性の深い地域・国があることは大きなアドバンテージ
- 専門家の育成



J-GRID+の重要性

J-GRID+における取組みと課題

ネットワークコア拠点

海外研究拠点間のネットワーク強化や、政府による平時からの感染症対応能力の強化のために、以下I及びIIの部門より構成される、国内代表機関や海外研究拠点を支援する国内の拠点。

I. モニタリング体制の拡充に係る部門

- ① 海外研究拠点からの自発的報告の体制の整備
- ② 政府の感染症発生情報に係る照会対応等の体制の整備
- ③ その他窓口業務

II. 海外研究拠点ネットワークの研究基盤強化に係る部門

- ① 連携推進支援
- ② 研究基盤強化に係るその他支援



図1 海外研究拠点一覧（令和5年8月時点）

グローバル感染症インテリジェンス強化における AMED海外研究拠点への期待

- 新興感染症が発生？の一報が早く欲しい（“早耳”）
 - **研究者ネットワークへの期待**
- 新興感染症が発生？の一報を迅速に正しく評価したい
 - Verification
 - **不確実な情報を裏打ちする情報源の確保**
 - メディアの特性、現地情勢等
 - Risk Assessment
 - 感染症＋社会的インパクトを含めた評価の必要性
 - サーベイランス・調査体制
 - 保健・医療制度、関連法・政策
 - 人口・地理／政治・社会情勢

AMED海外拠点を活用したグローバルインテリジェンス強化と モニタリング体制の構築に向けたステップ^o

・段階的な体制構築が必要

Step 1 信頼醸成

- ・ 役割の相互理解
 - ・ ⑤ 情報が集まるサイクルの形成
 - ・ カントリーレポートの作成
 - ・ 関係の可視化と共有（④ 組織知の形成と共有）
 - ・ 感染症発生情報の提供
- 双方に有用な
インテリジェンス情報基盤の構築
- 関心事項の共有

Step 2 情報要求の明確化・共通理解の形成

- ・ Unknown感染症等の発生情報に関するコメントの依頼
- ・ 公衆衛生リスク評価に関するミーティング等

Step 3 情報収集・リスク評価手法の普及

Step 4 自発的なモニタリング・報告体制

インテリジェンスレポートの送付



週1回送信

感染症情報 エクセル



----- 編集後記 -----

新年あけましておめでとうございます。
 本年もどうぞよろしくお願いいたします。
 お正月といえば、箱根駅伝！！
 皆さまご覧になられましたか？
 今年の見どころは、やはり5区山登り。
 青山学院大学の黒田選手が区間記録を2分近く更新し
 往路優勝に貢献されました。
 選手達の意地と意地のぶつかり合いに、
 毎年元気もらっています。

J-GRID + コア拠点事務局
 モニタリング担当

サマリーのメール本文中添付

2026年01月20日版作成時 コア拠点からのコメント	
	ネットワークコア拠点 (国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター)
Zambia	南アフリカ全土での集中豪雨と洪水により、少なくとも100人が死亡、韓国モザンビークではコレラが発生していると報道されていました。洪水はマダガスカル、マラウイ、ザンビアにも影響を及ぼしているとのこと。
Philippines	保健省は、2025年は麻疹と風疹の症例が5,123件報告されたと報告し、前年から32%増加していることを受け、児童を対象としたキャッチアップ予防接種の取り組みを発表した、というニュースが取り上げられていました。予防接種キャンペーンは、2026年1月19日にジェネラルサントス市 (ミンダナオ島) で開始されることとです。
Thailand	疾病管理局 (DDC) は全国的にMpoxの監視を強化しているというニュースが取り上げられていました。動物の狂犬病症例が確認されたことを受け、ラオクワン地域クローン・サム・ブアワート地区の住居に狂犬病警報を発令したという報道も見られました。
Ghana	国内では、最大2万5000人が未診断の結核と共に生活していると推定されており、市中感染の継続と薬剤耐性結核 (DR-TB) の増加のリスクをもたらしているというニュースが取り上げられていました。
DRC Congo	キブ州カレヘ地方ゴジ郡、ルアラバ州の州都コルウェジで深刻なコレラが再流行、オーロマミ州では2週間以上で少なくとも290件のコレラ症例が記録され、6例が死亡と飲料水の不足と衛生対策に対する地域社会の垣状により、コレラ発生が悪化しているとの報道が見られました。
Brazil	サンパウロ州は、同年初のデング熱による死を報告したというニュースが取り上げられていました。バイアス州カルダス・ノバスでデング熱の流行が起こり、社会的災害状態を宣言したと、デング熱に関するニュースが多く占めていました。ハンセン病はマツグロソ州で依然として非常に風土病的な病気で、2025年には3,770人 (部分データ) の新規症例が発生した、というニュースも取り上げられていました。
Indonesia	インフルエンザA(H3N2)サブグループKは、インドネシアの8つの州で67人の検査確定と報じられていました。最も感染者数が多い3つの州は、東ジャワ、南カリマンタン、西ジャワのことです。
China	青海省玉樹チベット族自治州における積極的な予防・管理へと移行する上で、包虫症 (エキノコックス症) スクリーニング・予防処置と診断・治療センターを設立したというニュースが取り上げられていました。広東省弘山市にある欣慰中学校の生徒103人がノロウイルスに感染したというニュースが複数件取り上げられていました。
Myanmar	今週取り上げられたニュースはありませんでした。
Vietnam	ベトナム食医薬品局によると、台湾・台中の製造施設で生産されたエンテロウイルス71型ワクチンEnVAX-A71にGMP認証を取得したというニュースが取り上げられていました。
India	西ベンガル州コルカタ地域で2例のニパウイルス感染例に関するニュースが多く取り上げられていました。ワタール・ブアデーシェ州がジブール県で、ファナフアプフル、パハディプフル、ハリハルプフル、チョーティ・ジャンギプフル、シカルプフル、ダリ・カラ、ラトコリを含む約12の村で原因不明の小児疾患が発生しているというニュースが取り上げられていました。臨床医によると神経系に作用するウイルスを疑っているが、確定診断はまだないとのこと。

読まれる工夫
 目に留まる工夫

情報の「呼び水」としてのインテリジェンスレポート

- 配信に際し、各拠点の研究者に対し、現地の実態・拠点としての関連する取組／研究実績・報道内容と事実との相違等の追加情報がある場合には、コメントや情報を自発的にご提供いただくよう呼びかけを実施。
- レスpons事例：
 - 活用事例：
 - 拠点設置国の流行状況を知る
 - サンプル採取の参考情報
 - 渡航時の注意

今後の方向性

- インテリジェンスレポートの活用
 - それぞれの拠点のニーズに合わせた情報提供
- 公衆衛生当局や現地関係機関との連携支援
 - 拠点（とその専門家）が現地により強く根付くことが重要
 - 支援組織との連携
- 疫学的視点の組み込み支援
- 「感染症モニタリング」の業績化